

2022年12月26日

各位

会社名:ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社
 代表者名:代表取締役社長 橋爪 克仁
 (コード番号:6090 東証グロース)
 問合せ先:取締役コーポレート統括本部長 大畑 恭宏
 (TEL:03-3551-2180)

(訂正)「事業計画及び成長可能性に関する事項」の一部訂正について

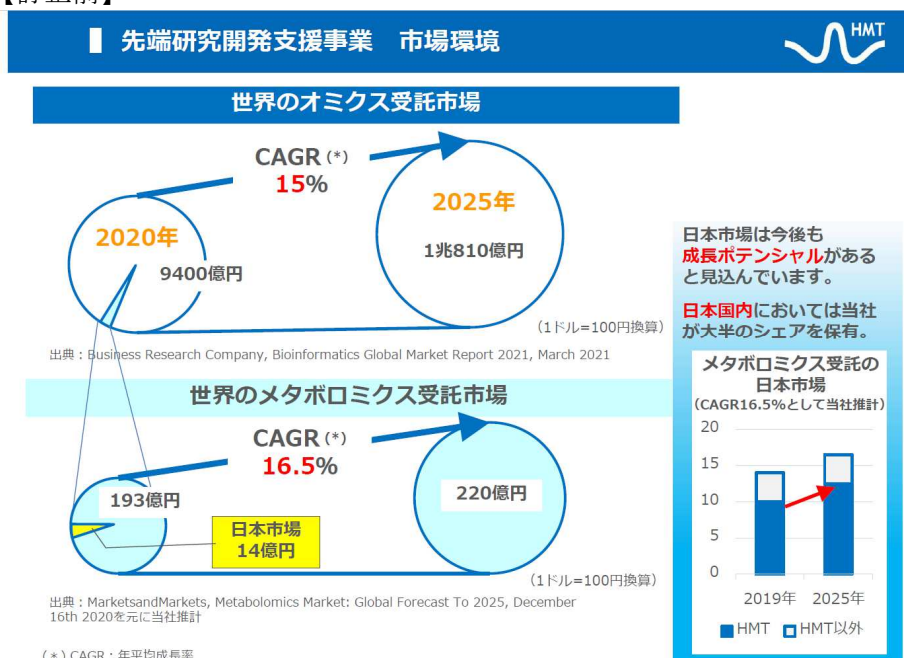
2022年9月26日に開示いたしました「事業計画及び成長可能性に関する事項」につきまして、一部訂正すべき事項がありましたので、ここにお詫び申し上げますとともに下記のとおりお知らせいたします。また、訂正後の全文を添付いたします。

記

訂正の理由・内容：P.11 先端研究開発支援事業 市場環境
 P.17 ヘルスケア・ソリューション事業 市場環境
 2025年の市場規模の金額に誤り(一部当社の計算ミス)がありました。
 訂正箇所は下線赤字にて表示しています。

P.11 先端研究開発支援事業 市場環境

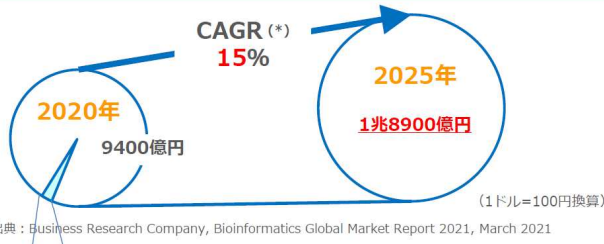
【訂正前】



【訂正後】

■ 先端研究開発支援事業 市場環境 

世界のオミクス受託市場



日本市場は今後も成長ポテンシャルがあると見込んでいます。
日本国内においては当社が大半のシェアを保有。

世界のメタボロミクス受託市場



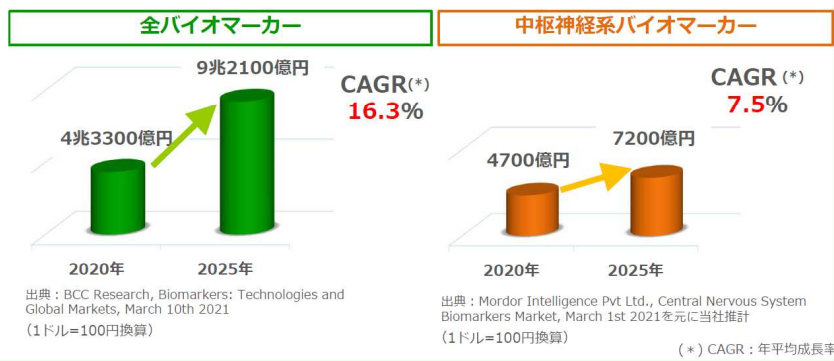
(*) CAGR：年平均成長率

P.17 ヘルスケア・ソリューション事業 市場環境

【訂正前】

■ ヘルスケア・ソリューション事業 市場環境 

世界のバイオマーカー市場規模



(*) CAGR：年平均成長率

【訂正後】

■ ヘルスケア・ソリューション事業 市場環境 

世界のバイオマーカー市場規模



(*) CAGR：年平均成長率

以上



Human Metabolome Technologies, Inc.

事業計画及び成長可能性に関する事項

2022年9月

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 (6090)

本資料の一部またはすべての複製・転載は、お断りいたします。

目次

1. 会社概要
2. ビジネスモデル
3. 市場環境
4. 競争力の源泉
5. 事業計画
6. リスク情報

目次

1. 会社概要
2. ビジネスモデル
3. 市場環境
4. 競争力の源泉
5. 事業計画
6. リスク情報



ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

設立年月日：2003年7月1日

資本金：1,481百万円

取締役（社内）：橋爪 克仁（代表取締役社長）
大畑 恭宏（取締役）

創業者：

富田 勝 慶應義塾大学先端生命科学研究所所長

曾我 朋義 慶應義塾大学教授

主な事業内容：先端研究開発支援事業

ヘルスケア・ソリューション事業

売上高（直近）：1,223百万円

従業員数（連結）：65名（博士：14名）

本社：山形県鶴岡市覚岸寺字水上246-2

東京事務所：東京都中央区新川2-9-6

シュテルン中央ビル5階

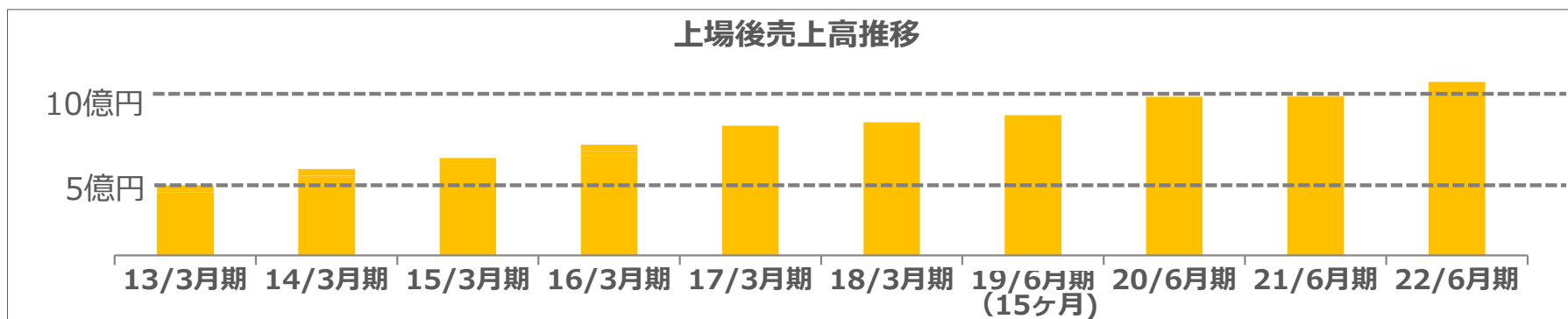
子会社：HMTアメリカ

アメリカボストン

（2022年6月末現在）

本資料の一部またはすべての複製・転載は、お断りいたします。 4

- 2001 ● 慶応大学先端生命科学研究所、山形県鶴岡市に開所
- 2003 ● 創業（創業者：慶応義塾大学 富田氏、曾我氏）
- 2012 ● Human Metabolome Technologies America Inc. 設立
- 上場（東証マザーズ(2022.4以降東証グロース市場)：6090)
- 2013 ● うつ病バイオマーカー基本特許登録（日本）
米国（2015年）、中国（2015年）、欧州（2019年）
- 2015 ● 第9回 日本バイオベンチャー大賞受賞
- PEA測定に関する特許登録（日本）
- 2016 ● HMTバイオメディカル株式会社設立（2021年1月HMTと統合）
- エムスリー株式会社との資本業務提携
- 2018 ● 大うつ病性障害バイオマーカーに関する論文掲載
- 2019 ● 弘前大学寄付講座「メタボロミクスイノベーション学」開設
- 軽度認知障害バイオマーカー特許出願（日本）

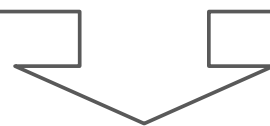


目次

1. 会社概要
2. ビジネスモデル
3. 市場環境
4. 競争力の源泉
5. 事業計画
6. リスク情報

当社の企業理念・パーパス

「未来の子供たちのために、最先端のメタボローム解析技術とバイオ技術を活用した研究開発により、人々の健康で豊かな暮らしに貢献する」



当社が目指す方向性

【ヘルスケア・ソリューション・プロバイダー】
ヘルスケア研究開発に携わる人々のベストパートナーとして、画期的なヘルスケア製品・サービスの創造に貢献する。

当社のSDGsへの取り組み



【目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう。】

当社の技術・ノウハウを提供することで産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力の向上に貢献する。



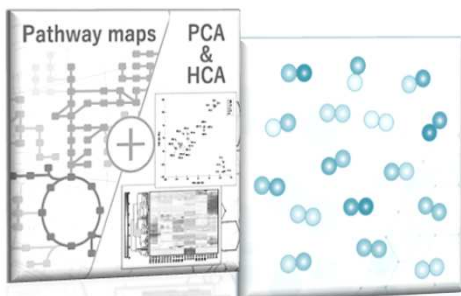
【目標3：すべての人に健康と福祉を。】

当社の研究開発支援の結果、クライアント企業及び自社の製品化・サービス化により、健康危険因子の早期警告・緩和・管理、感染症などへの予防・対処、精神保健などの改善に貢献していく。

基礎研究領域

先端研究開発
支援事業

メタボロミクス
(+α オミクス)
解析受託サービス



最先端研究の
ブレークスルーに貢献

ヘルスケア関連領域

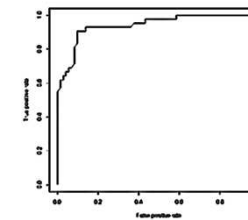
ヘルスケア・
ソリューション事業

ヘルスケア・ソリュー
ション開発サービス

インフォマティクス



機能性素材開発支援



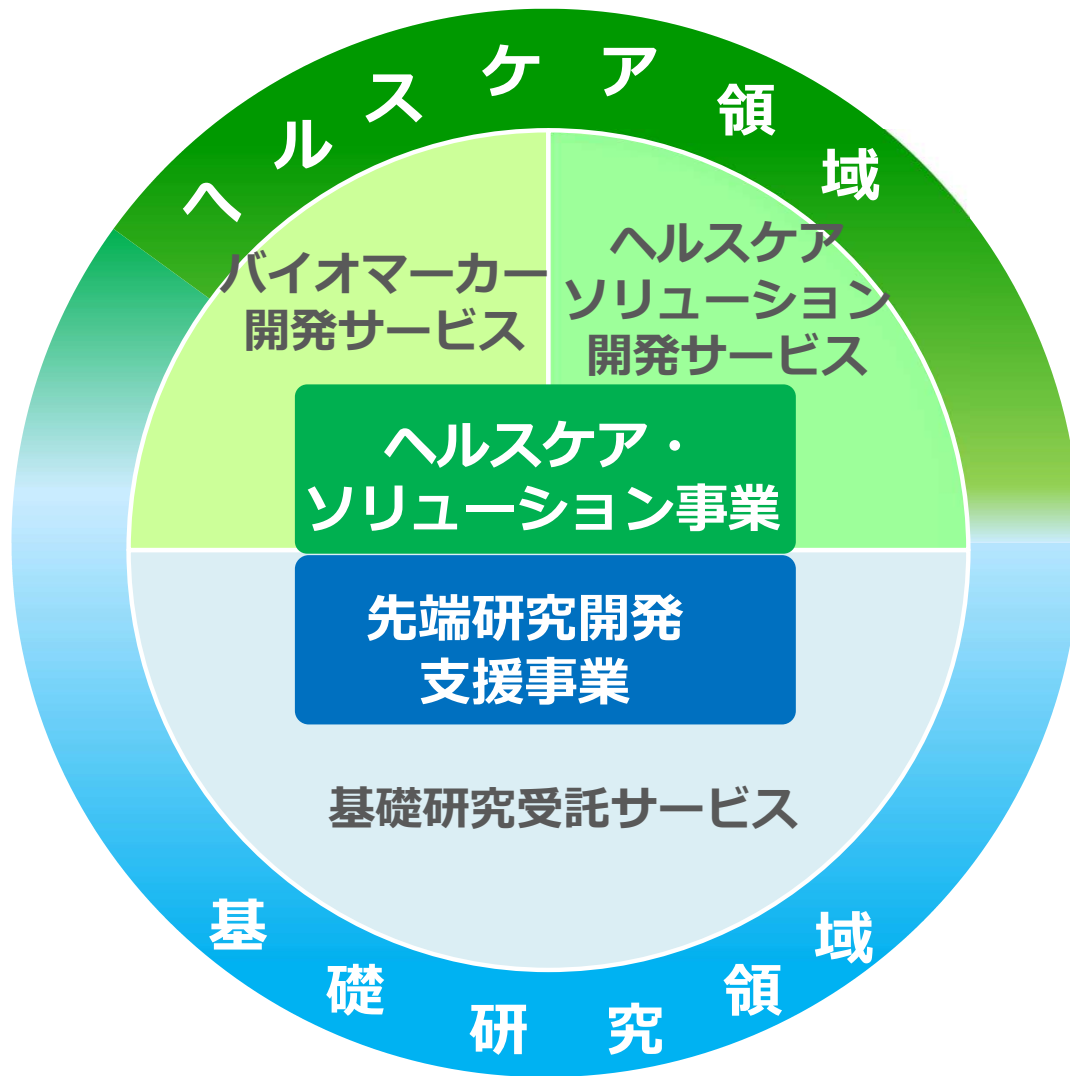
バイオマーカー開発支援

ヘルスケア関連企業が抱える
研究課題の解決に貢献

- 未病・予防といった健康寿命延伸を目的とした研究開発
- 様々な機能性素材の開発
- 健康に寄与するソリューション開発

<キーワード> 免疫強化、メンタルヘルス、Well-being、QOL向上 etc...

食品・栄養・健康・未病



先端研究 開発支援事業

ヘルスケア・ ソリューション事業

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボロミクス受託 ・他オミクス受託、新分子種の受託解析 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存開発マーカークの実用化 ・バイオマーカー探索 ・ヘルスケアR&D支援 ・自社機能性素材開発 ・Exosome関連開発
収益構造	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライセンス ・ロイヤリティ ・マーカー探索受託 ・受託検査 ・製品販売 ・コンサルティング
顧客	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミア ・製薬企業 ・食品企業 ・化粧品企業等 	<ul style="list-style-type: none"> ・製薬企業 ・診断薬企業 ・食品企業 ・化粧品企業 ・(食品) CRO ・クリニック ・機能性素材製造販売企業等

メタボロミクス受託サービス

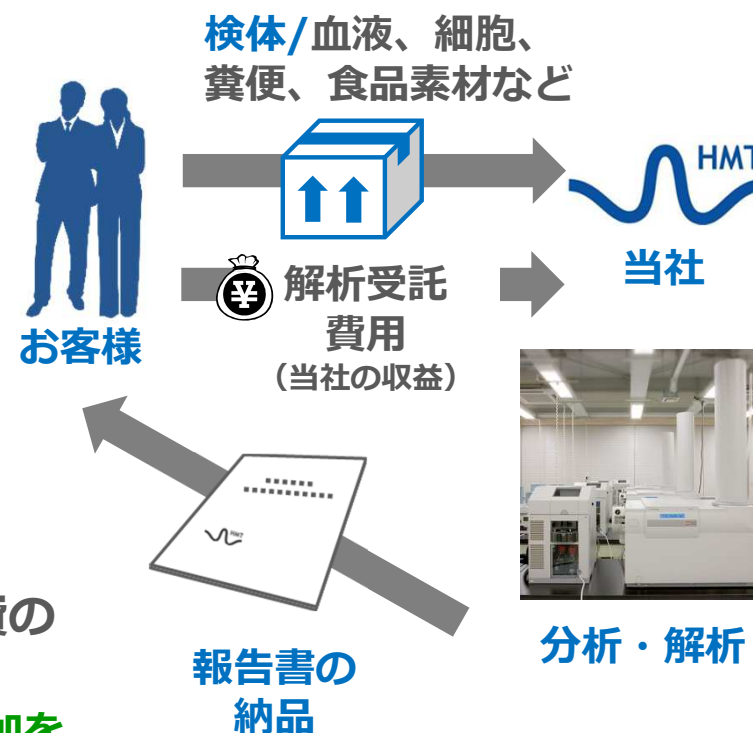
代謝成分の網羅解析技術を用いて、**顧客の研究開発を支援**します。

<主な顧客>

- ・ 大学、公的研究機関
- ・ 民間企業（製薬企業、食品企業、化粧品企業などのヘルスケア事業を展開している企業）

<収益構造>

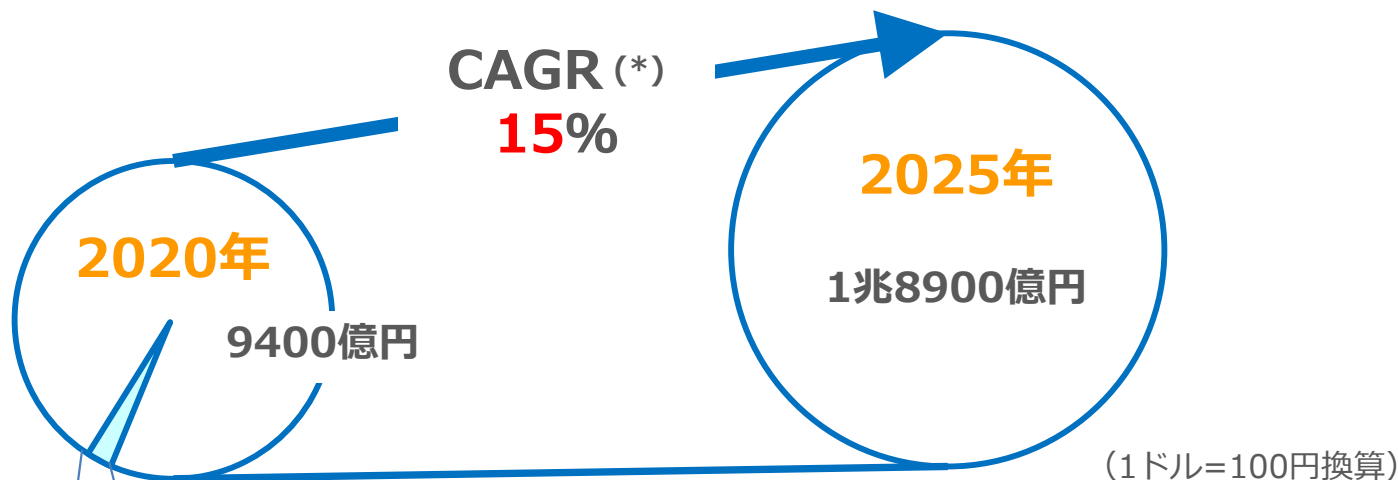
- ・ 解析受託サービス提供
（検体数×メニュー別単価×案件数）
- ・ 自社による測定解析のため、設備費や人件費の固定費率が大きく変動費率は極めて低い
⇒解析キャパシティ・稼働の拡大に取組み、収益増加を目指します。



その他オミクス受託サービス

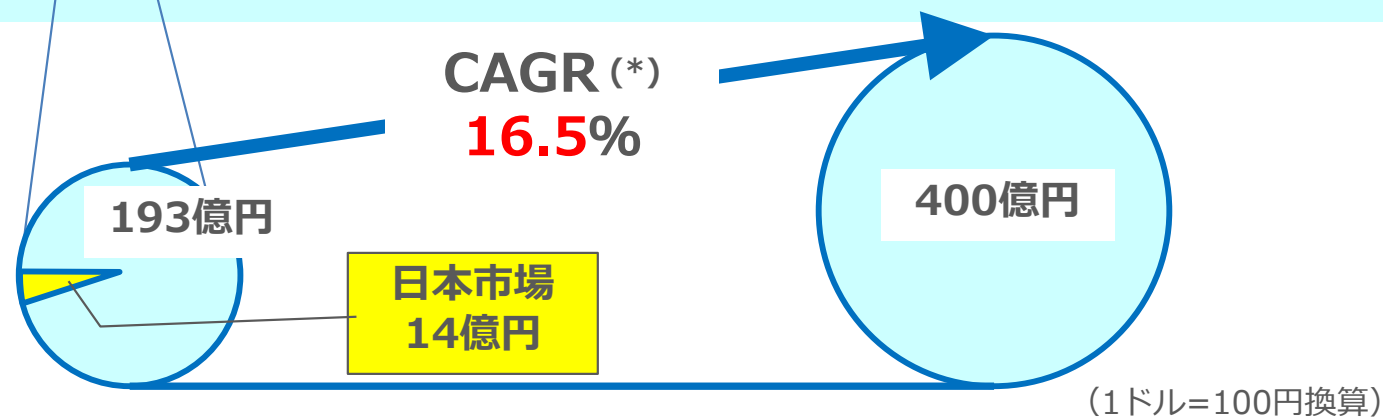
新たな分子種・他のオミクスの受託など、拡充していく予定です。

世界のオミクス受託市場



出典：Business Research Company, Bioinformatics Global Market Report 2021, March 2021

世界のメタボロミクス受託市場

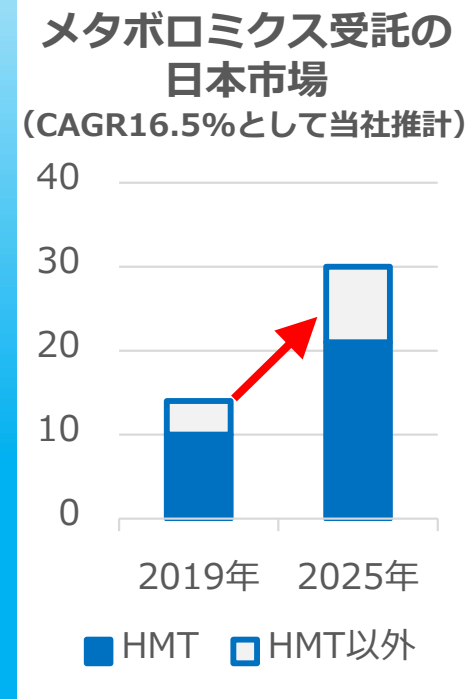


出典：MarketsandMarkets, Metabolomics Market: Global Forecast To 2025, December 16th 2020を元に当社推計

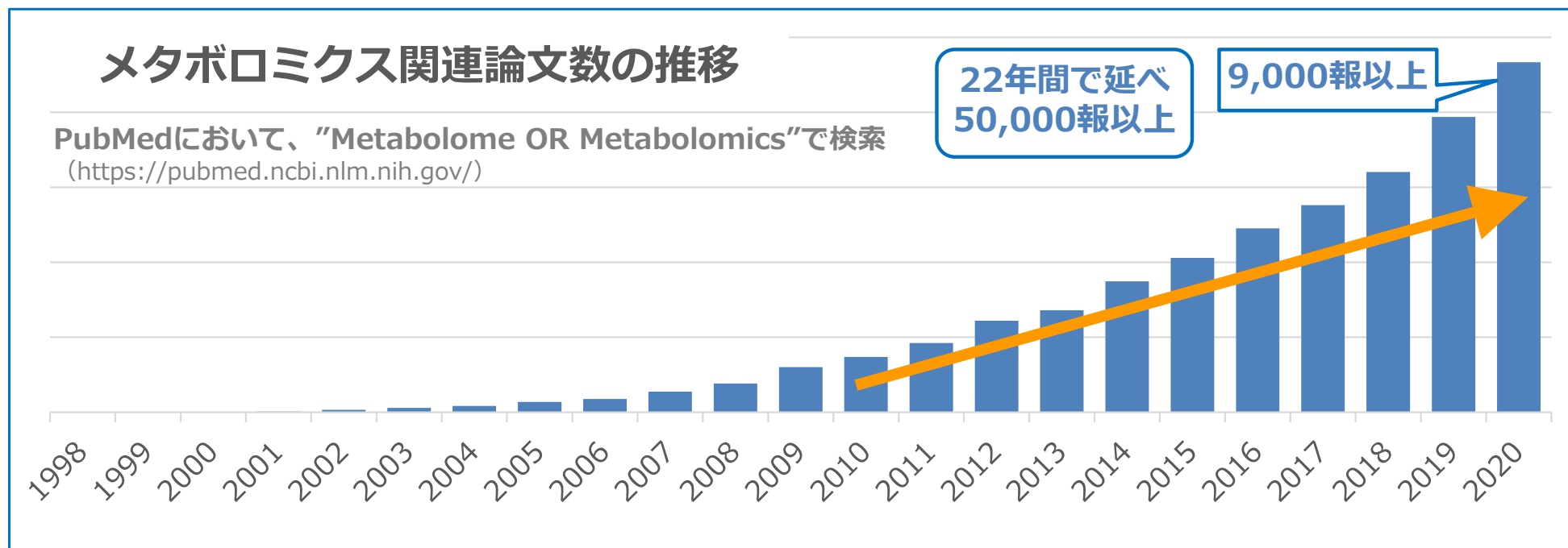
(*) CAGR：年平均成長率

日本市場は今後も成長ポテンシャルがあると見込んでいます。

日本国内においては当社が大半のシェアを保有。



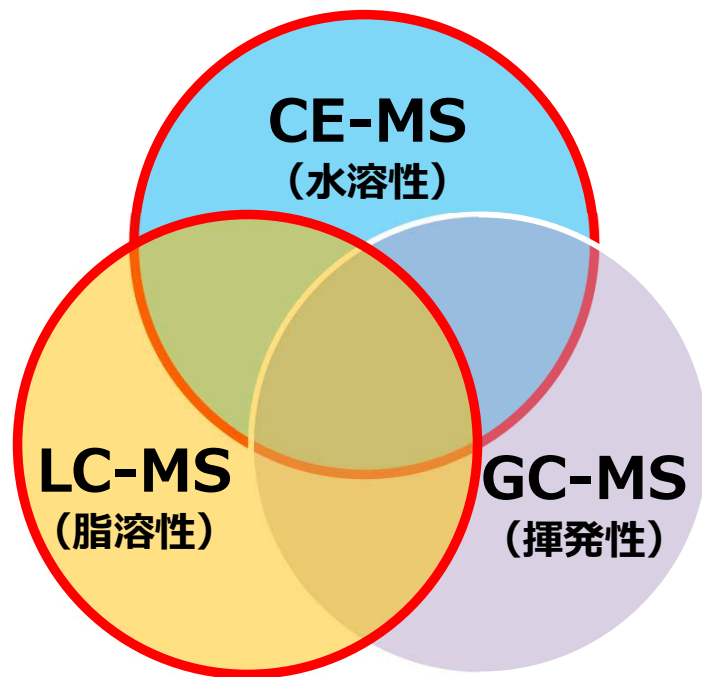
当社のメタボロミクス実績



- 上グラフにあるとおり、メタボロミクス関連論文数は22年間で延べ50,000報以上。
- これらのうち、**当社が関与した論文数は 600 報以上**
- 論文数の年間推移などからも、今後もメタボロミクスのニーズは高まっていくと見込んでいます。

当社の強み① 分離技術/分析技術

メタボロミクスの
主な解析手法は3種類



それぞれ測定可能物質が異なる

CE-MS : キャピラリー電気泳動質量分析
LC-MS : 液体クロマトグラフィー質量分析
GC-MS : ガスクロマトグラフィー質量分析

当社は、3種類の方法のうち、CE-MSをベースに、LC-MSを用いた解析手法を取り入れています。

特に、CE-MSでは、水溶性分子の解析が特徴的であり、**測定対象物質で差別化**を図っています。

(CE-MS用いて事業を展開している企業は当社を含め数社のみ。)

CE-MSとLC-MSの組み合わせにより、生体内に存在する**大部分の代謝物質を測定対象とすることが可能になります。**

更には、当社が独自の特許技術である「イオン源アダプタ」の導入により**超高感度化を実現。**

独自の解析プラットフォームと、自社内に開発リソースを有し、**顧客ニーズに即した新メニューなどを機動的に開発・導入できることが競争優位性**となっています。

当社の強み② 広範な顧客基盤

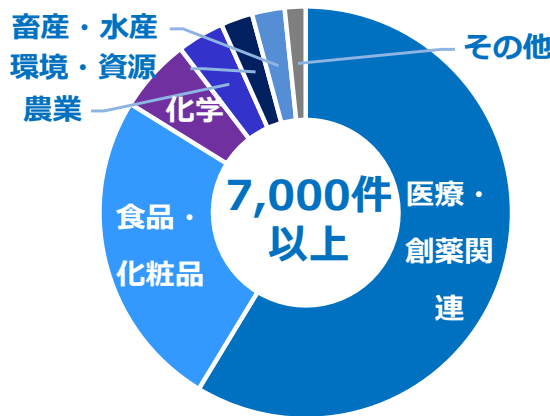
当社の強み③ 多種多様なプロジェクトで培った解析ノウハウ

当社のメタボロミクス実績

試験委託機関別



分野別



試料種別



2020年度累計

メタボロミクスが活用されている研究領域



バイオマーカー開発サービス

リキッドバイオプシー(*1)において、未病、予防、疾病の診断に寄与する**バイオマーカー(*2)**を**探索**するサービスを提供します。

また、バイオインフォマティクスを活用してマルチマーカー開発サービスを進めます。その他、バイオマーカーの自社開発や、測定の受託等を行います。

<主な顧客>

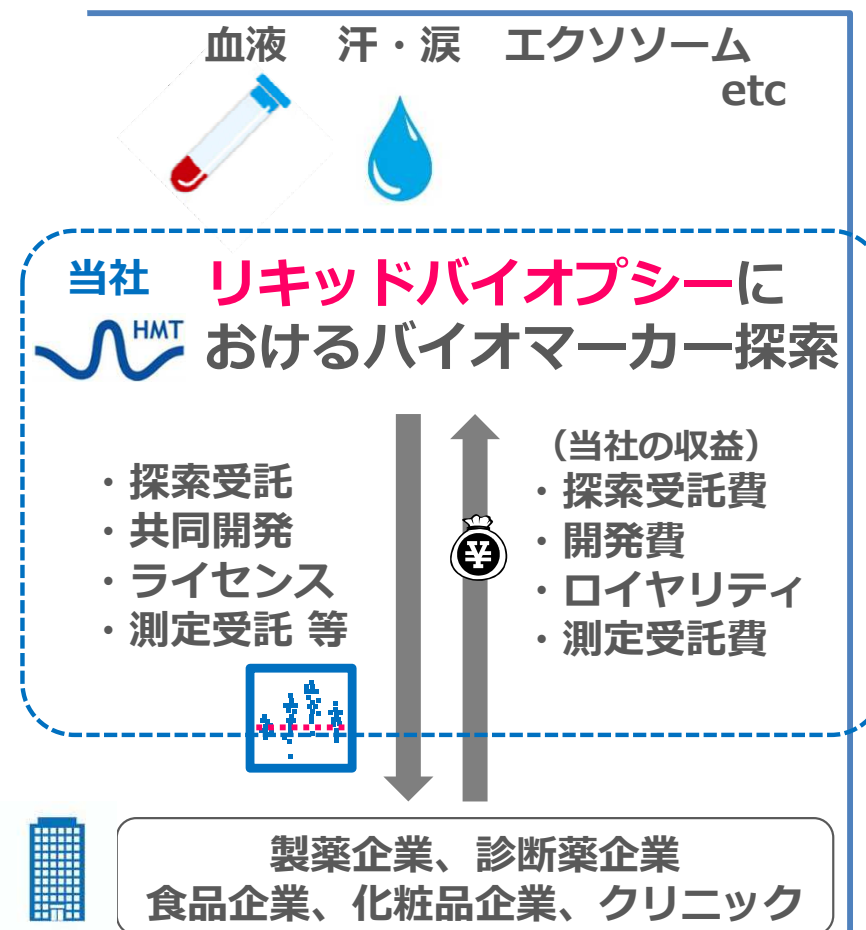
製薬企業、診断薬企業、食品企業、化粧品企業、クリニック

<収益構造>

- ・ロイヤリティ収入（一時期＋出来高）
- ・バイオマーカー測定受託費収入
- ・バイオマーカー探索支援受託費収入

<現在の開発項目>

- ・うつ病バイオマーカー候補物質（PEA等）⇒ 自由診療での活用。測定手法も開発継続。
- ・軽度認知障害（MCI）マーカー ⇒ オミクスより得られた複数のマーカー候補に関して多検体でのマーカーの検証を継続。



(*1) リキッドバイオプシーとは、侵襲性の少ない液性検体を用いた検査、解析技術

(*2) 特定の病状や生命体の状態を客観的に評価することができる生体内の指標

ヘルスケア・ソリューション開発サービス

ヘルスケアの研究開発支援を行います。
機能性素材にかかる研究開発の課題を
ワンストップで解消するソリューション
 を提供する他、機能性素材の自社開
 発等を行います。

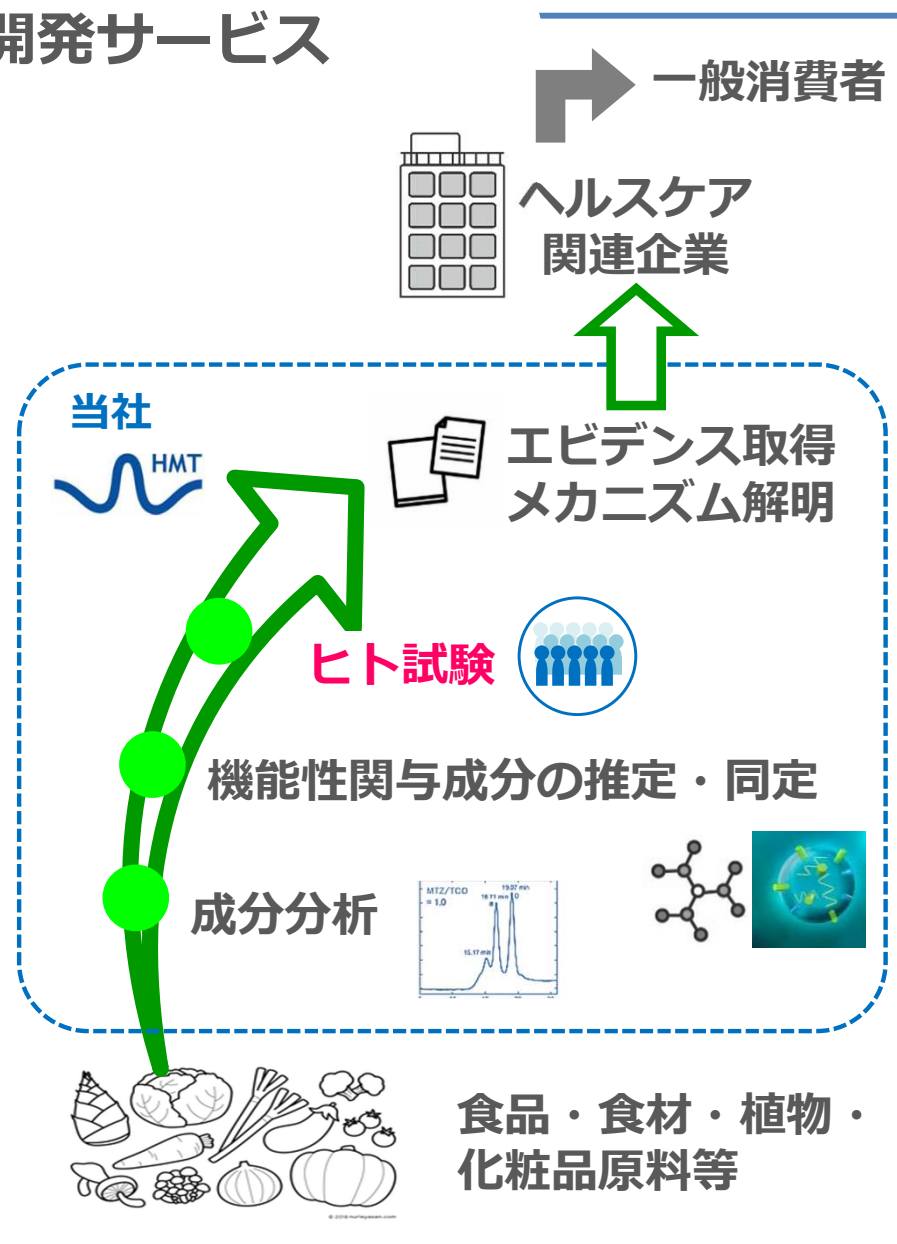
新たに取り組むビジネスであり、現時
 点では開発ステージにあります。

<主な顧客>

食品企業、化粧品企業、機能性素材製造
 販売企業、エクソソーム研究・開発企業

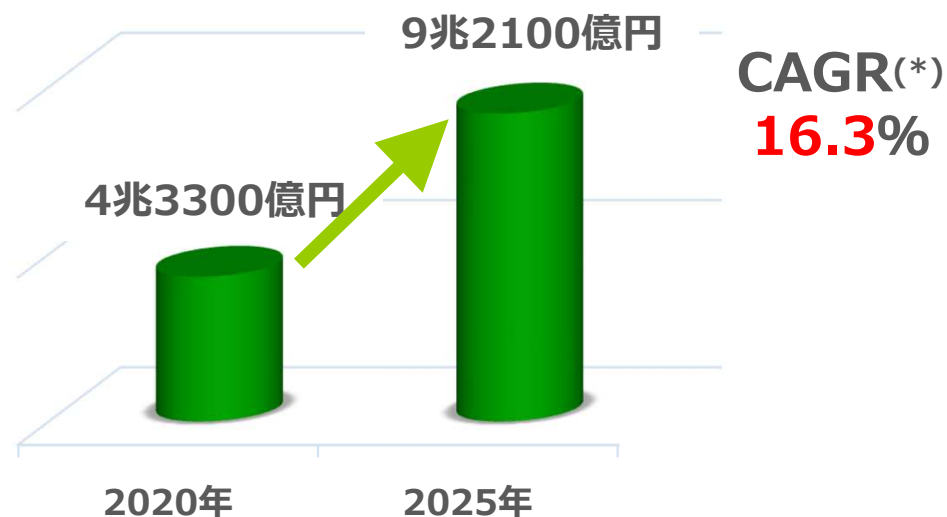
<収益構造>

- ・ 業務委託（コンサルティング）フィー
- ・ 外部提供サービスのアグリゲーション
 による管理手数料
- ・ 自社開発、共同開発から発生した知財
 からのロイヤリティ収入
- ・ エクソソーム関連製品およびサービス
 の販売収入



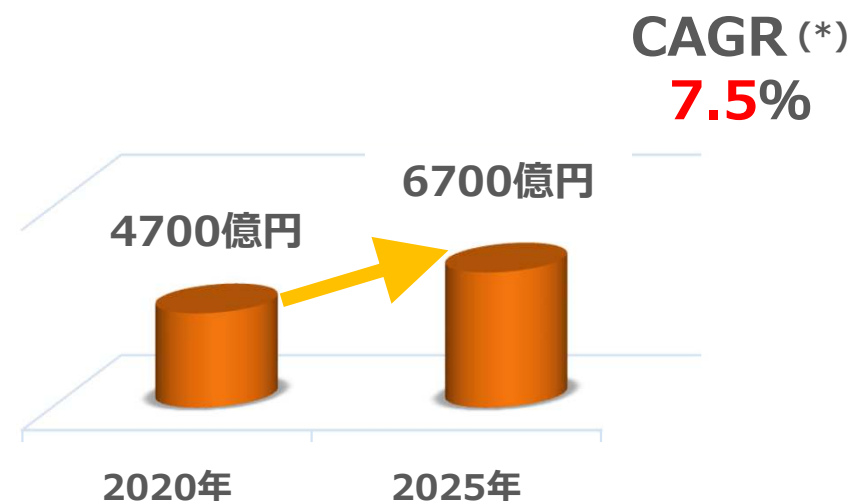
世界のバイオマーカー市場規模

全バイオマーカー



出典：BCC Research, Biomarkers: Technologies and Global Markets, March 10th 2021
(1ドル=100円換算)

中枢神経系バイオマーカー



出典：Mordor Intelligence Pvt Ltd., Central Nervous System Biomarkers Market, March 1st 2021を元に当社推計
(1ドル=100円換算)

(*) CAGR：年平均成長率

- 世界のバイオマーカーの市場規模は今後も拡大が見込まれます。
- 当社が開発に取り組んでいる精神疾患関連バイオマーカー（うつ病、MCI等）も成長市場として期待することができ、ニーズも高まっていくものと見込まれます。

日本のヘルスケア(*) 市場規模

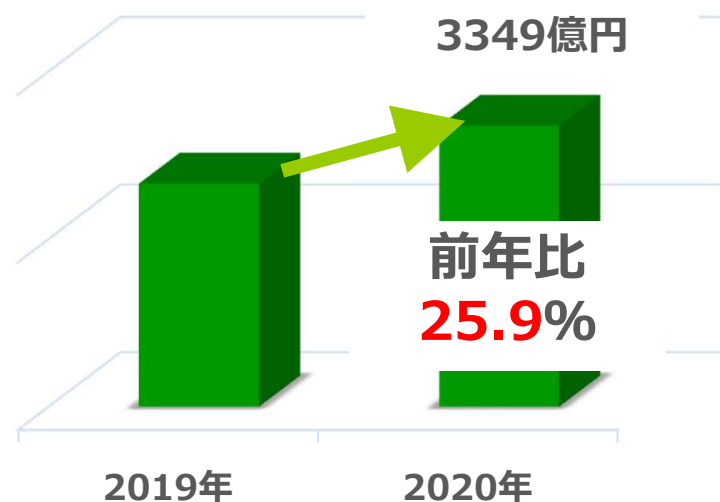
(*) 公的保険外サービスで健康の保持・増進に働きかけるもの

国内のヘルスケア産業の市場規模は2025年には約12.5兆円（年平均成長率3.5%）と見込まれています。（出典：経済産業省資料より）

特に今後は**免疫強化関連の市場の拡大**が高くなることが予想されます。

2020年度の健康・機能性食品素材の市場規模（推定）は3,349億円であり、**流通量、金額ともに伸長**しています。 出典：（株）富士経済2021年資料を元に当社推計

機能性表示食品市場



- 機能性表示食品市場（国内）は、前年比などからも**今後も高水準での成長が見込まれます**。
- この成長市場には国内外の食品・化粧品などのヘルスケアメーカーが高い関心を寄せています。

生体分子の網羅的解析技術、分離分析/分離精製技術、 インフォマティクス、代謝物データベース

バイオマーカー開発サービス

- 迅速に新規バイオマーカーを探索できる**当社独自のバイオマーカー探索プラットフォーム**（特許による独占技術）
- 長年にわたりバイオマーカー探索に取り組んできた経験豊富な科学者集団
- 顧客ニーズに合致したバイオマーカー探索デザインの提案力

ヘルスケア・ソリューション開発サービス

- 社内研究で蓄積された代謝物に関する膨大なデータ
- アカデミア・研究者とのネットワークを活用したメカニズム解明、エビデンス取得
- 機能性素材探索から**ヒト試験**までワンストップで対応可能なノウハウ、提携先
- 顧客との科学的議論をリードできる科学者集団

目次

1. 会社概要
2. ビジネスモデル
3. 市場環境
4. 競争力の源泉
5. 事業計画
6. リスク情報

基本戦略

基盤となる先端研究開発支援事業の持続的収益拡大と
ヘルスケア・ソリューション事業の早期確立

先端研究 開発支援事業

<当面の収益を牽引>

平均年率7%以上の売上拡大を目標

2025年度(2026年6月期)の売上目標15億円

- ① 解析受託サービスメニューの拡充および新規開発
- ② 測定解析の生産性向上（生産工程ロボット化、新測定メソッド等）
- ③ メタボロミクスユーザーへのアップセル（オミクスの提案等）

ヘルスケア・ ソリューション 事業

<将来の成長エンジン>

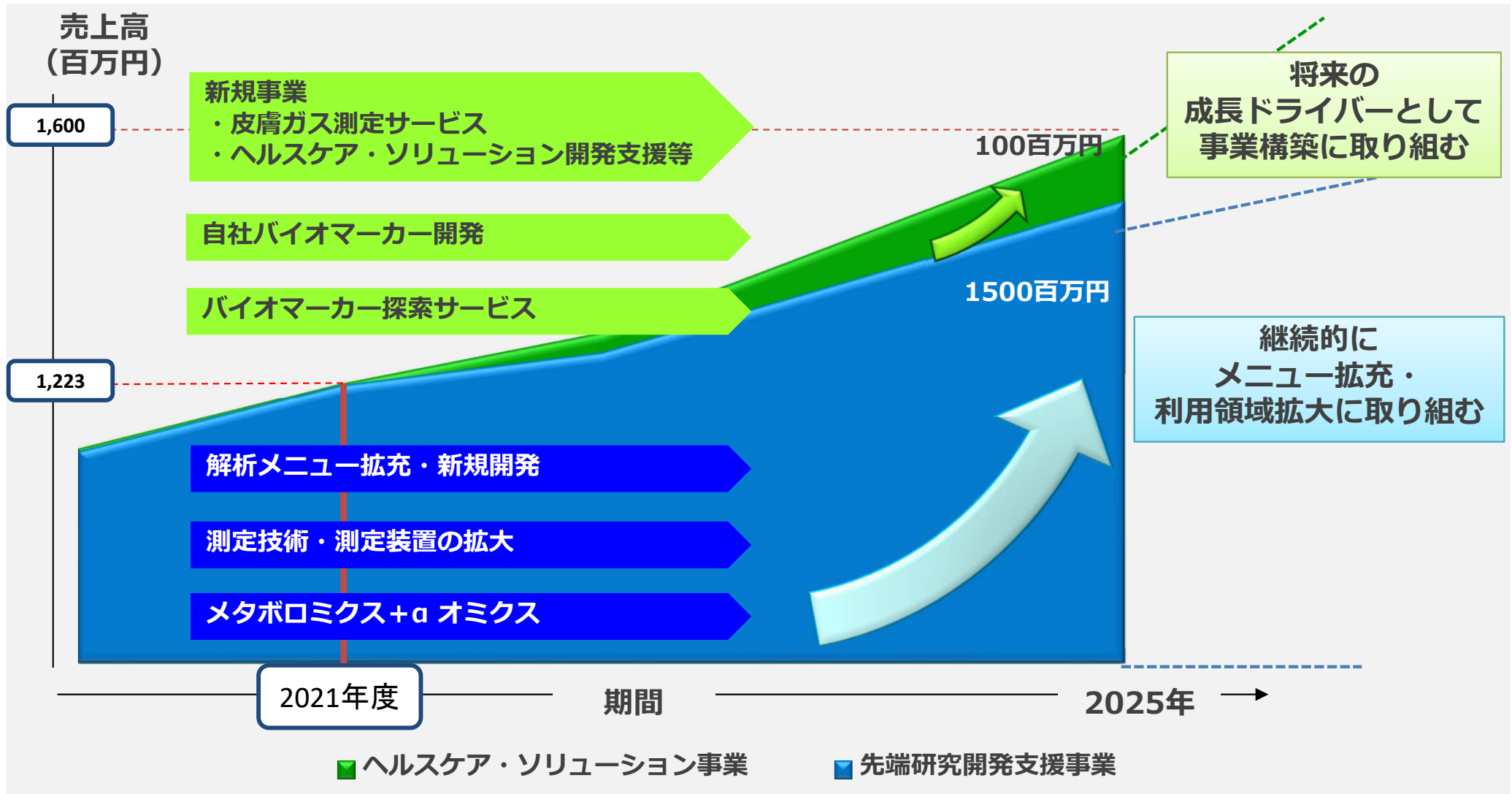
2025年度(2026年6月期)に1億円以上の持続的な売上計上

セグメント利益の黒字化（全社共通費の配賦を除く）

- ① バイオマーカー開発事業の早期収益化
- ② ヘルスケア・ソリューション開発事業の立ち上げ

基本戦略

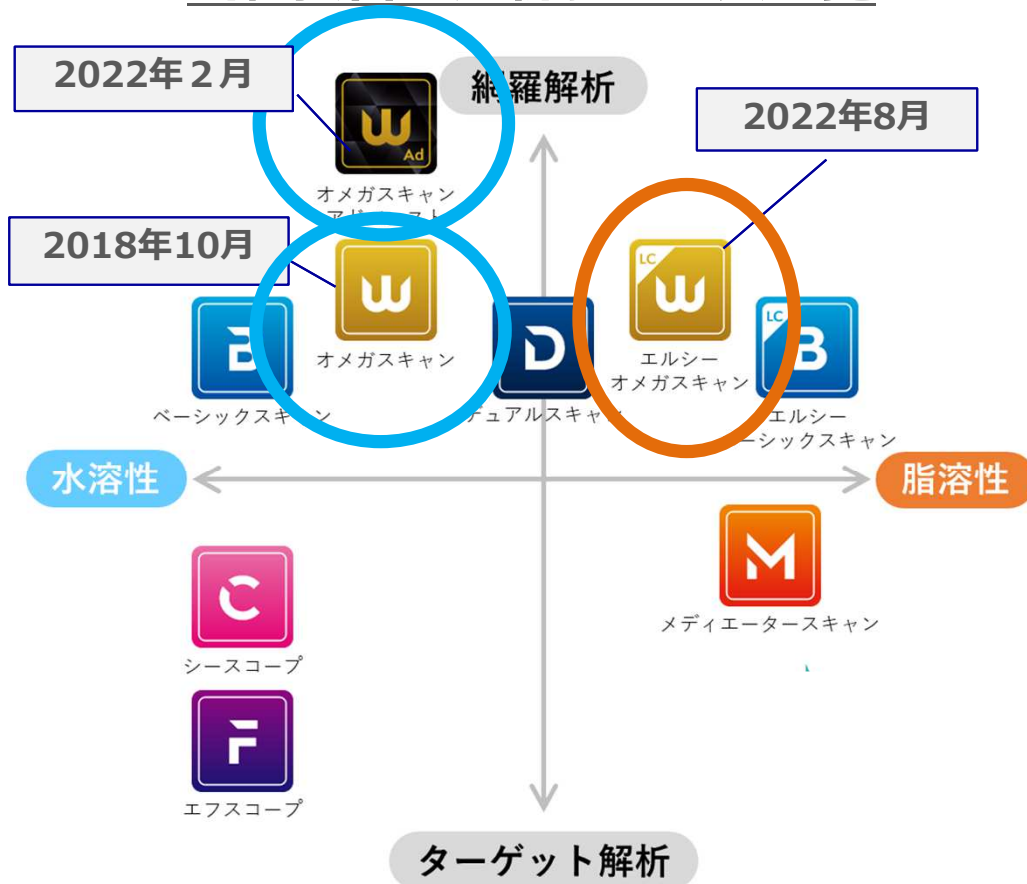
基盤となる先端研究開発支援事業の持続的収益拡大と
ヘルスケア・ソリューション事業の早期確立



高感度網羅解析メニューの拡充と新メニュー開発

高感度網羅解析メニュー（ ω Scan）への期待増大（対前期2倍を超える売上）。
これを受け、**解析対象物質数**と**解析対象範囲**を拡大。

当社独自の解析サービス一覧



■ 水溶性の高感度網羅解析

upgrade!

水溶性

【 ω Scan】

当社選定の約1100種（2022年8月に拡張）の代謝物質を解析するメニュー。

【 ω Scan Advanced】

ω Scan の対象物質（約1100種）のみならず、解析可能なあらゆる物質の情報を提供するメニュー。**最も網羅性が高い。**

■ 脂溶性の高感度網羅解析

new!

脂溶性

【LC- ω Scan】

脂溶性・中性代謝物質の約450種を解析するメニュー。

従来メニュー(LC-Basic Scan)と比べ、**検出物質数が1.5倍～2倍を実現。**

高感度網羅解析のヘルスケア分野での拡大

今後もメニュー拡充などを行い、お客様の先端研究開発支援に注力

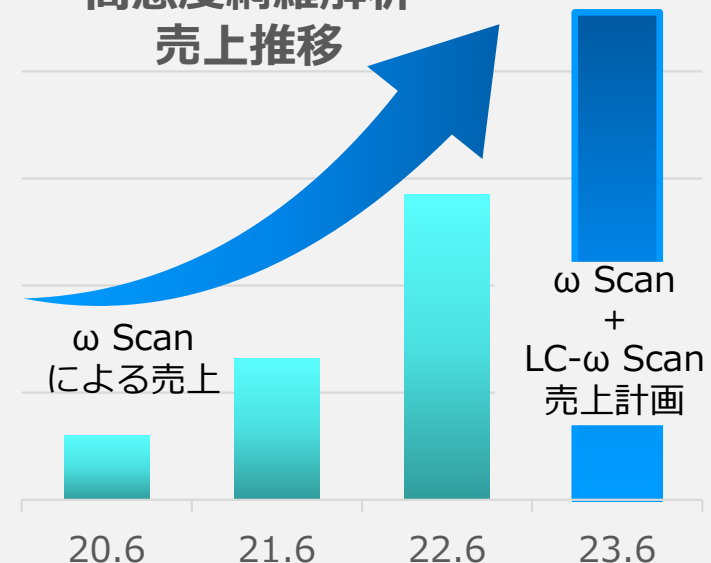
高感度メタボローム解析プラットフォームの確立



ヘルスケア分野での 更なるニーズ拡大を図る

- ヒト試験
- 食品機能性成分の広範囲なスクリーニング
- 機能性関与成分の作用機序解明
- バイオマーカー探索 etc

高感度網羅解析 売上推移



マルチバイオマーカー探索支援「メタボロインデックス®」

■ マルチバイオマーカー探索サービス開始（2021年12月）

— **メタボロミクスと機械学習を組み合わせ**て解析を行うことで、複数のバイオマーカー（**マルチバイオマーカー**）を探索し、従来のシングルマーカーに比較して高精度な判別精度となるバイオマーカーを見出すことが可能に。

— 論文の査読において、機械学習を用いたメタボロミクスマルチマーカー探索ニーズの高まりに対応。

- ・ **医学分野**における臨床研究等
- ・ **ヘルスケア分野**での健康寿命の延伸等を目的とした（未病・予防）健康指標開発等

— 本ソリューションの提供を通じて、研究者の幅広い研究開発を支援することを目指す。

— 今後も**オミクスとバイオインフォマティクス**を駆使した**バイオマーカー探索サービス**の拡充を検討。



自社開発マーカーの社会実装に向けて

メンタルヘルス

- 精神状態の評価指標の開発に向け、マルチマーカー（複数因子）の研究に取り組む。
- 予防・高ストレス者のモニタリングでの利用を想定し、社会実装の検討を継続。
- 2022年7月、九州大学と共同研究を開始。
働く人のメンタルヘルス不調の血液等を用いたモニタリングシステムの開発。

軽度認知障害等

- 共同研究講座「メタボロミクスイノベーション学」（弘前大学）での研究開発。
- マーカーの検証を継続中。

3 すべての人に
健康と福祉を

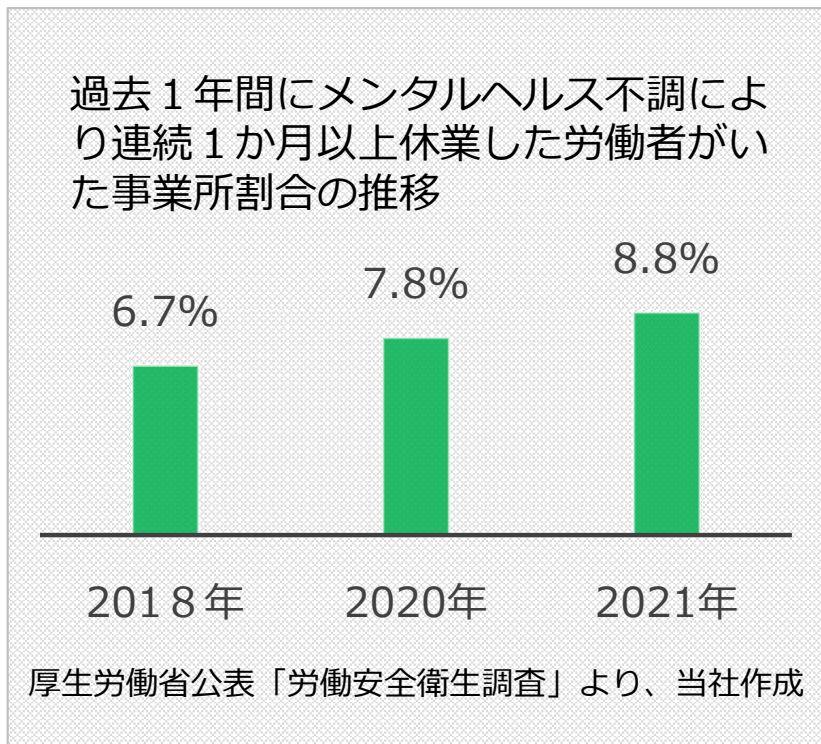


当社のSDGsの達成目標の一つである【目標3：すべての人に健康と福祉を。】の取り組みとして、**メンタルヘルスや認知症**といった

社会課題に貢献することを目指して研究開発を進めてまいります。



働く人の心の健康を維持する仕組みづくり



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

HMT

2022年7月13日

HMT、九州大学と共同研究を開始
メンタルヘルス不調による休職・復職支援のための
精神状態評価指標の社会実証を目指す

～九州大学との連携～

- 働く人のメンタルヘルス不調の血液等を用いたモニタリングシステム開発
- スムーズな職場復帰支援
- 再発リスクの低減 etc.

メンタルヘルス不調者の増加は
企業においても大きな課題に

働きやすい社会環境を構築し、
働く人のQOL (Quality of Life)
向上に寄与することにより、
社会課題の解決に貢献することを目指す

個人としてのメンタルヘルスカア、
働く組織におけるメンタルヘルスカア
→企業においても重要視されている

連携スケジュール

共同実証実験
(POC)
協議検討

共同実証実験
(POC)
開始

社会実装に向けた
協議検討
協業パートナー
検討など

■ 休職・復職支援のための精神評価モデルの開発



厚生労働省が推奨するメンタルヘルス「4つのケア」



セルフケア



ラインケア



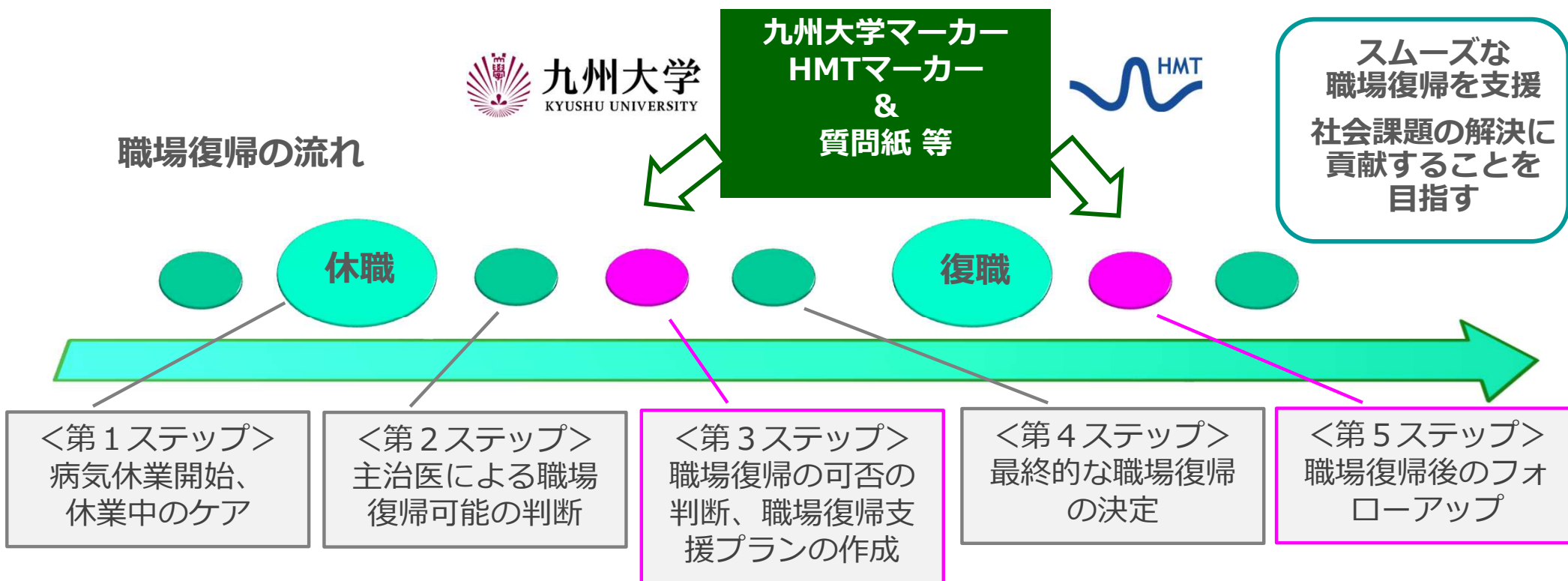
事業場内 産業保健スタッフ等によるケア



事業場外資源によるケア

厚生労働省資料「労働者の心の健康の保持増進のための指針」より、当社作成

職場復帰の流れ



厚生労働省資料「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」より、当社作成
本資料の一部またはすべての複製・転載・再配布は、お断りいたします。

皮膚ガス測定サービスの導入

■ AIREX社のヒト皮膚ガス測定サービスをヘルスケア領域において独占的に提供

皮膚ガス

皮膚から放散される揮発性の代謝物質が含まれている体においてとして認知される生体ガス

全く痛みが伴わない非侵襲に生体情報を入手することが可能

身体的・生理的状态・生活環境等で変化



PFS法※により皮膚ガスを捕集し測定

※PFS (Passive Flux Sampler) 法
「PFS法」は東海大学理学部関根嘉香教授が開発した皮膚から発生するにおい成分を直接採取する方法です。小型でシーンを選ばずに電源も必要としない皮膚ガス採取方法であり、世界的に見ても本法以外にありません。

<想定される利用領域>

香料・化粧品開発企業

➢ スメルケア製品開発・改良等

機能性表示食品開発企業

➢ ヒト試験での有効性検証

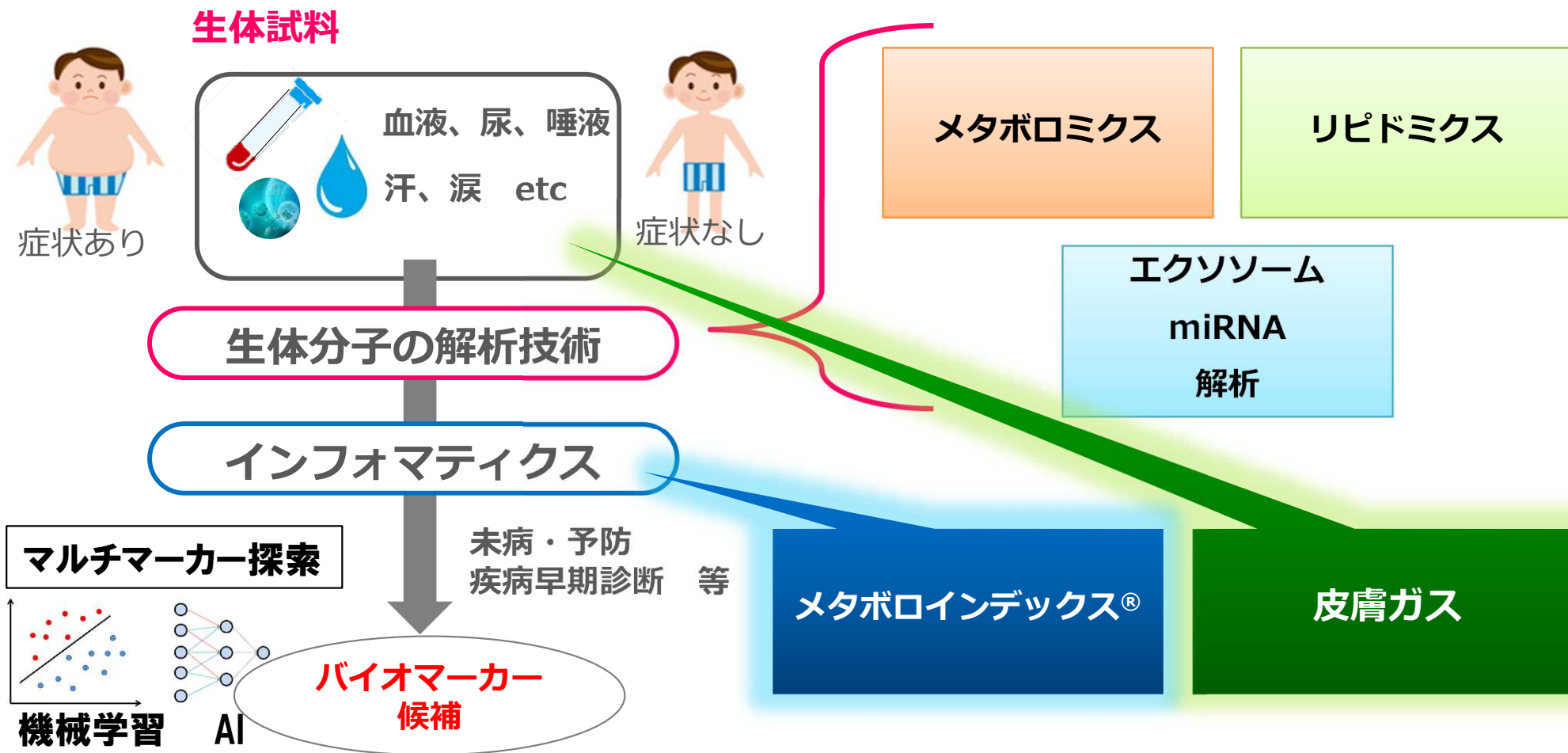
メディカルヘルスケア企業

➢ 未病・健康状態の指標となるバイオマーカー開発
➢ **ストレス、疲労などの指標**として、メンタルヘルス分野への応用

ヘルスケア領域での
利用拡大を目指す



バイオマーカー開発支援



非侵襲検査技術（リキッドバイオプシー※含む）への応用

※侵襲性の少ない液性検体を用いた検査、解析技術。

リキッドバイオプシーの世界市場規模は、2022年には約2050億円、年平均成長率23%とも言われている。

（AMED「医療機器開発のあり方に関する検討委員会」（2018年3月）の検討結果資料より当社試算（1ドル100円換算））

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

成長計画に対する進捗

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		2025年度
売上高	計画*1	-	-	1,200	-		1,600
	先端研究開発支援			1,192			1,500
	ヘルスケア・ソリューション			8			100
	実績/予想	1,118	1,124	1,223	1,300		-
	先端研究開発支援	1,114	1,120	1,220	1,270		
	ヘルスケア・ソリューション	4	4	2	30		
親会社株主に帰属する当期純利益	計画*1	-	-	100	-		200
	実績/予想	△47	58	267	270		-

2021年度（2022年6月期）の開示計画との乖離状況とその理由

- ・売上高は先端研究開発支援事業で高感度網羅解析サービスの受注増により若干増加しました。ヘルスケアソリューション事業ではPEA検査受注が減少したため減少しました。
- ・親会社株主に属する当期純利益は、販売費および一般管理費が計画よりも大きく削減できたため大幅に増加しました。国内外業務効率改善による生産性向上と円安に伴う為替差益、新株予約権放棄に伴う特別利益の計上などが計画との乖離の主要因です。

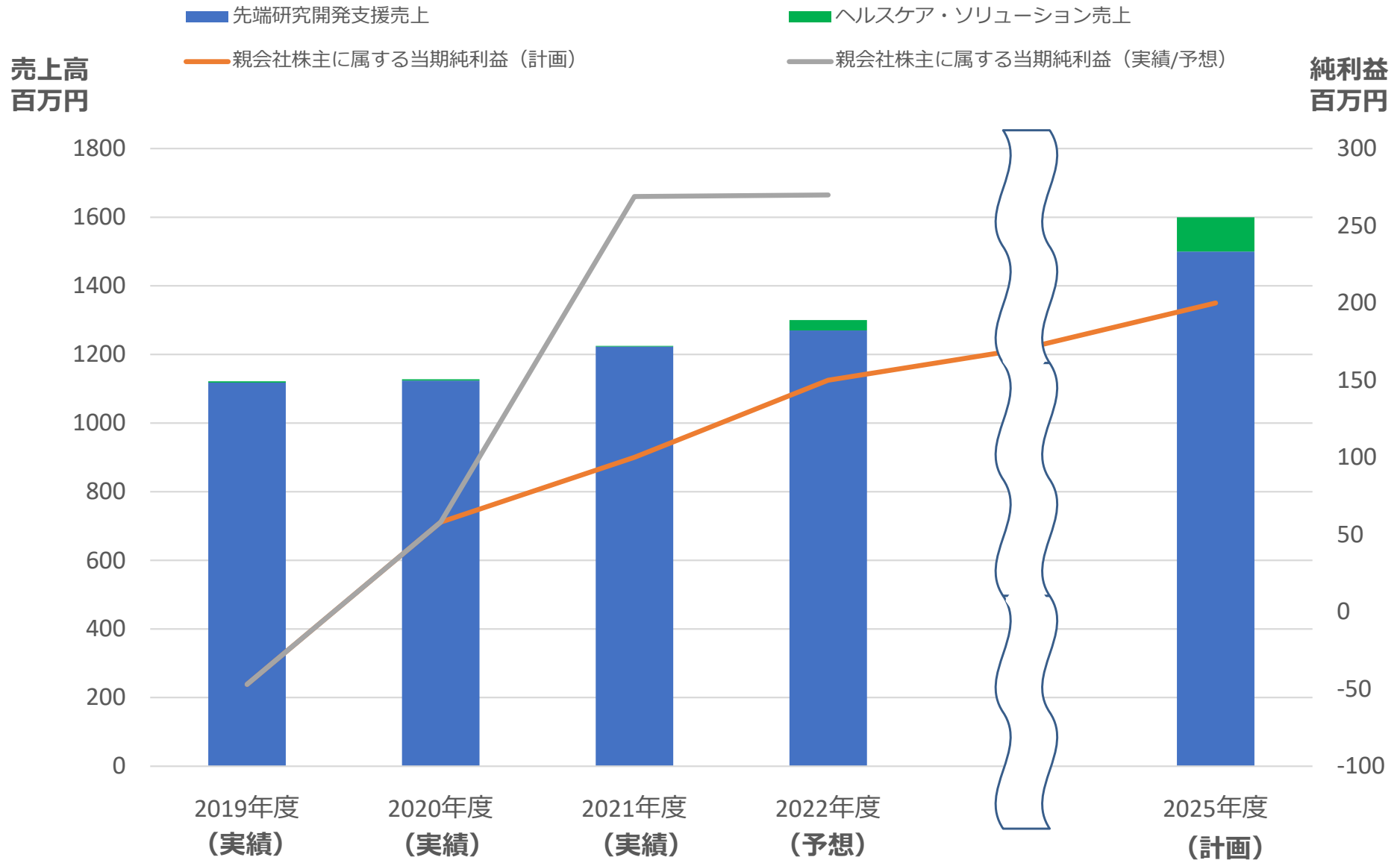
2022年度（2023年6月期）の見通しについて

- ・営業外収益として、助成金による収入(16百万円)を見込んでおります。特別損益については見込んでおりません。

2025年度(2026年6月期)の計画について

- ・2021年11月開示の数値を掲載しております。その時点での原価・一般管理費予想を元に作成した計画となります。現在見直し検討に着手しております。確定次第ご案内いたします。

成長計画に対する進捗



目次

1. 会社概要
2. ビジネスモデル
3. 市場環境
4. 競争力の源泉
5. 事業計画
6. リスク情報

下表は、弊社の有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しています。顕在化の可能性を定量的に表示するのは極めて困難であり、その時期が不明であるため、顕在化による影響金額、ならびにその発生時期については記載しておりません。

その他のリスクにつきましては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

主要リスク項目	リスク内容	リスク対応策
<p>① 先端研究開発支援事業における国内外での競合リスク</p>	<p>当社収益の中心となっている先端研究開発支援事業（現メタボロミクス事業）は国内外の競合が増加傾向にあり、価格競争も一部で見られるようになってきています。価格競争に巻き込まれると当社の収益性が損なわれる可能性があります。</p> <p>またメタボロミクス受託以外の受託解析サービスの拡大に関しても、市場は拡大してはいるものの既存競合との競争は避けられず、当社が新受託解析市場において一定のシェアを確保できるどうかは当社グループの技術開発力、営業提案力次第となります。</p>	<p>メタボロミクス受託サービスについては生産性の改善を通じて、原価の引き下げを図り、価格競争力のある収益構造を構築すべく対応を進めております。</p> <p>メタボロミクス以外の解析受託サービスに関しては、当社グループの独自開発による解析サービスを中心に拡大を図り、またワンストップでの解析サービスの提供などにより、競争優位性を維持強化することで対応を進めてまいります。</p>
<p>② 鶴岡本社設備の災害によるリスク</p>	<p>現在の収益の中心である解析受託サービスはその大半が鶴岡本社にて実施されております。鶴岡本社が自然災害その他の事故などにより大きな被害を受けた場合には、その復旧に係る費用ならびに一定期間営業が停止することによる機会損失など当社グループの経営に大きな影響を与える可能性があります。</p> <p>また当該期間中に顧客が競合に移管してしまう可能性なども考えられます。</p>	<p>当社グループではこうしたリスクに対応するために、復旧に要する費用については保険を付保し、また軽度の災害・事故による影響については、その影響が短期的な業績に影響を与えないような対策（停電対策など）を順次講じていますが、当社グループの規模では分析設備の分散などは業務生産性を大きく損なうためとりうる対策としては限界がございます。</p>

主要リスク項目	リスク内容	リスク対応策
<p>③ ヘルスケア・ソリューション事業の事業化及び商品開発の遅延リスク</p>	<p>当社グループの成長は主に新規開発によるイノベーションによってもたらされます。新規性の高い開発には失敗がつきものであるため、開発が困難な障害によりとん挫すること、期待する成果を得るために克服すべき障害が想定より多く発生し、成果に至るまでの期間が長引く可能性があります。これらは当社グループの成長戦略に影響を与えることとなります。</p>	<p>こうした開発遅延によるリスクを最小化するために、当社グループでは開発プロジェクトを絞り込み、プロジェクト当たりリソースを拡充し、毎月経営者による確認・意思決定を迅速に行うこととしております。</p> <p>また研究者・技術者による新規開発を促進するために、業務時間の一定割合を新規開発に費やすこと、新規アイデア創出に必要な費用を予算化するなどにより、イノベーション創出を促進してまいります。</p>
<p>④ 人材流出リスク</p>	<p>当社グループの役職員数は、前連結会計年度末現在、役員 5 名及び従業員 69 名と小規模組織であり、個々の役職員の果たす役割が大きく、一定数の人材が流出した場合に当該分野での事業が一定期間滞る可能性があります。</p>	<p>当社グループでは、こうした人材流出を抑制するために透明性の高い社風を構築し、社員と会社のおかれている環境・成果などを共有し、一体感の醸成に取り組んでおります。</p> <p>また業績連動賞与を導入することで会社の利益と個々の役職員の利益の連動性を持たせ、利益配分が公正に行われる体系としております。</p>

主要リスク項目	リスク内容	リスク対応策
⑤ 情報漏洩リスク	<p>当社グループは顧客の研究開発支援としての解析受託サービスなどを行っているため、顧客の営業秘密にかかわる情報を扱う場合がございます。</p> <p>特に今後成長牽引を期待して展開・拡大を進めていくヘルスケア・ソリューション事業においては顧客からの秘密情報が多く含まれることが想定されるため、当社グループの重過失またはサイバーセキュリティ被害などによる情報漏洩は、顧客に多大なる損害を与える可能性があると同時に、当社グループ自身もその損害賠償リスク並びにレピテーションリスクにさらされる可能性があります。</p>	<p>当社グループではこうしたリスクに対応していくために、社内情報管理体制の強化ならびにサイバーセキュリティ対策を強化してまいります。</p>

本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通し等に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後のマクロ経済動向、市場環境や当社の属するライフサイエンス業界の動向、当社の研究開発の進捗、その他内部及び外部要因により変動することがあります。

そのため、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通し等に関する記述と異なるリスクがあることを予めご了承ください。